

## 令和3年度 事業報告

令和3年(2021年)度は、前年度末の3月18日に発出された「宮城県・仙台市緊急事態宣言」(4月5日から「まん延防止等重点措置」)の影響により、3月27日から市内のホールの多くが閉鎖に追い込まれるという状況からのスタートとなりました。

仙台フィルはこうした緊急事態宣言下においても、音楽の力で少しでも多くの方々の心に安らぎをもたらすことができるよう、エフエム仙台の協力を得てラジオ番組「仙台フィル Wave Symphony」、「サンデークラシックス」をお届けするなど、情報発信に努めてまいりました。

5月の演奏会再開後は、感染症対策を徹底し、お迎えするお客様のご理解とご協力をいただきながら、安心・安全なコンサート会場を提供しております。

徐々に緩和されつつある感染症対策のガイドラインに甘んじることなく、公演が滞りなく開催できるよう、引き続き徹底した対策を講じつつ、多くの方に希望と感動をお届けすることを目的に活動を継続してまいります。

### 1. 楽団経営健全化への取り組み

令和3年度は「経営健全化に向けた新たな取り組み」の4年目でした。

引き続き「適正な編成規模への見直し」により累積赤字を解消し、経営の健全化を図ることを大きな柱としてきました。

退職者不補充により、パート毎に定めた適正な人数を令和9年度(2027年度)には達成(楽団員66名体制)することを目標としておりますが、定年前退職者も発生しており、令和3年度末現在の楽団員数は68名となっております。

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した依頼公演に代わる新たなコンサートを獲得すべく、文化庁がコロナ禍における地域の芸術文化の振興や需要喚起を目的として実施した「アートキャラバン」事業(新規4公演獲得)や「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」(新規12校獲得うち5校中止)にも積極的に応募しました。

また、2年振りの開催となった第九特別演奏会は、ARTS for the future!事業(コロナ禍における積極的な公演等に対する新たな補助制度)に採択され、補助金の交付を受けることができました。

## 2. 交響管弦楽の演奏

### (1) 定期演奏会（9回（14日）：14公演）

令和3年度は、常任指揮者飯守泰次郎のもと、令和2年度までのベートーヴェンを昇華し、チャイコフスキー、ブラームスという2大作曲家を柱に据えたコンセプトで構成しました。

令和3年5月22日の第345回定期演奏会では、若手実力派の川瀬賢太郎の指揮のもと、平成20年（2008年）に「第8回ランパルフルート国際コンクール」（フランス）の覇者に輝いたフルート奏者上野星矢を招いて、ハチャトゥリャンのフルート協奏曲とブラームスをオマージュしシェーンベルクが管弦楽版に編曲したピアノ四重奏曲を披露しました。

「打てば響く胸すく名演」と高い評価を得たほか、管楽器のソリストということもあり、比較的若い世代の吹奏楽経験者の集客にも成功しました。

令和3年6月12日の第346回定期演奏会では、常任指揮者の飯守泰次郎が、ベートーヴェンやブラームスとともに取り組んでいる作曲家の一人、チャイコフスキーの作品を取り上げました。

冒頭の序曲「1812年」は、進軍してくるフランスナポレオン軍に打ち勝ったロシア軍の勝利をモチーフに作曲された作品で、コロナ禍による暗い世相を吹き飛ばすような金管楽器の力強い響きや Banda の高らかな響きが鳴り響き、多くの聴衆を励ましました。

また、チャイコフスキーの「運命」ともいわれる交響曲第5番は、苦悩を乗り越え歓喜に至るというベートーヴェンの思想に相通じるものがあり、新型コロナウイルスの影響により比較的小さな編成でしか演奏できなかった約1年余りの閉塞感を払拭するような快演となり、オーケストラと聴衆が一体となって大音響の演奏に酔いしれました。

飯守泰次郎と仙台フィルの阿吽の呼吸についても紙面で高い評価を得ました。

7月10日の第347回定期演奏会は、当初指揮を予定していた元ウィーンフィルヴァイオリニストのサッシャ・ゲッツェルが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての入国制限により来日が困難となったため、急遽平成27年（2015年）第17回東京国際音楽コンクール〈指揮〉で第2位と聴取賞を併せて獲得し、将来を最も囑望されている若手指揮者のひとり、太田弦を代役に立て

での開催となりました。ソリストには日本国内の主要オーケストラと共演を重ねる外山啓介を迎え、抒情味溢れる人気作品、シューマンのピアノ協奏曲を演奏。「骨太のピアノにオーケストラも呼応。強弱を十分にとって、力感溢れる音楽」と評されました。

後半はイタリアの作曲家レスピーギの交響詩「ローマ三部作」より、「ローマの祭」と「ローマの松」を取り上げました。6月のチャイコフスキーより更に一段と編成の大きいこの二つの交響詩は、太田弦にとっても初めて指揮する曲でしたが、持ち前の才能と不断の努力による楽譜の読み込み・解釈によりオーケストラの魅力を見事に引き出し、演奏後は拍手喝采が鳴り止みませんでした。

7月後半から9月初旬にかけては再び新型コロナウイルスのまん延が顕著になりましたが、9月18日の第348回定期演奏会の1週間ほど前に「緊急事態宣言」が「まん延防止等重点措置」に切り替わったため、無事に開催することができました。

世界を股に駆け活躍するニュルンベルク交響楽団首席指揮者のカーチュン・ウォンと、チャイコフスキーコンクールで日本人として初めて、また女性として初めて第1位に輝いたピアニストの上原彩子を迎え、オール・ラフマニノフ・プログラム、ピアノ協奏曲第2番と交響曲第2番という演奏頻度の高い人気曲で構成しました。

注目度の高い本公演はチケットが完売し、地元仙台のみならず全国から多くの聴衆にお越しいただきました。

上原の奏でるピアノは時にはアンサンブルの支柱となり、また時には切れ味鋭いソロを随所にちりばめる高い経験値がうかがえました。

カーチュン・ウォンはオーケストラの音を立体的に聴かせる手法で非常にバランスよくまとめ、音響があまりよくないと言われているイズミティ21の大ホールにおいてもしっかりとオーケストラを鳴らし、奏者・聴衆から再演を望む声も少なくありませんでした。

常任指揮者飯守泰次郎と取り組んできたベートーヴェンシリーズに引き続き、チャイコフスキーと並んで取り組むブラームスシリーズ第1弾は、1年間改修工事のため離れていた日立システムズホール仙台コンサートホールに戻って、令和3年10月15日、16日の第349回定期演奏会でのお披露目となりました。

前年度の仙台フィル特別公演「マイタウンコンサート」におけるグリーグのピアノ協奏曲の演奏が記憶に新しい、釜石市出身のピアニスト小井土文哉をソリストに迎え、ピアノ付きの交響曲といわれるブラームスのピアノ協奏曲第2番を披露しました。若干26歳の小井土が円熟の極みにある飯守にどのようにアプローチしていくのかという点に注目が集まったこのコンサートですが、若き俊英は見事にブラームスの世界を表現し、聴衆のみならずオーケストラまでも魅了しました。この若き音楽家は来年5月には英国のロイヤルフィルとの共演も控えており、東北出身のピアニストとして今後も目が離せない存在です。

後半の交響曲第2番では飯守泰次郎の音楽観が遺憾なく発揮され、重厚なブラームスの世界のみならず、繊細で美しく、はかなさを併せ持った一面を見事に表現していました。

令和3年11月19日、20日の第350回定期演奏会には、バッハ・コレギウム・ジャパンの主催者でバロック音楽に定評があり、国内外で活躍する鈴木雅明を指揮台に迎え、入国が叶わなかったヴァイオリニスト、シャノン・リーの代役として令和2年(2020年)10月にNHK希望のシンフォニーで常任指揮者飯守泰次郎とメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲でみずみずしい音色を奏でた北田千尋(第7回仙台国際音楽コンクール4位入賞者)を代役に迎え開催されました。

鈴木雅明お得意のピリオド奏法にも近い演奏方法を取り入れつつ、ダイナミックさを失わない音楽構築は、「先入観を廃し作品が持つ本来の力を開放し優雅な表情を見せる一方で、理詰めで構築的な美意識が伝わる。」と評され好評を得ました。

ソリストの北田千尋はのびやかで透明感のあるモーツァルトを披露し会場を魅了しました。

仙台フィル指揮者として4年目を迎える角田鋼亮は令和4年1月14日、15日開催の第351回定期演奏会にグラミー賞受賞作品、ヒグドンのハープ協奏曲を取り上げ、世界的なハーピスト吉野直子との共演で日本初演(アジア初演)を成功に導きました。プログラム後半にはラフマニノフがアメリカ時代に作曲した交響的舞曲を演奏。アメリカ音楽の文化の広がりを認識させる充実の演奏となりました。

2月4日、5日開催の第352回定期演奏会は、常任指揮者飯守泰次郎と多賀城出身の新進気鋭ヴァイオリニスト、郷古廉の共演。飯守泰次郎ブラームスシリーズとして、ヴァイオリン協奏曲と交響曲第3番というカップリングでした。

郷古廉は近年N響のゲストコンサートマスターにもたびたび抜擢されるなど、ソリストとしてだけでなくオーケストラの一員としての研鑽も積み、そのアンサンブル力を高めてきました。その為仙台フィルとの呼吸も見事に合い、奇をてらわない王道的なブラームスを表現し多くの聴衆やオーケストラから絶賛されました。

飯守泰次郎が創るブラームスは前回までのブラームスシリーズ同様に、作曲家の内面からあふれる感情を意図したかのような想像力を重視した構成で、オーケストラの主体性を引き出すようなアンサンブルを構築しました。

今後このブラームスシリーズは、令和4年5月の第355回定期演奏会へと続いていきます。

3月18日、19日開催の第353回定期演奏会はレジデント・コンダクターの高関健を迎え、現代作曲家の矢代秋雄の代表作であるピアノ協奏曲と、仙台フィルが得意とするフランス音楽の最高傑作ともいわれるベルリオーズの幻想交響曲というラインナップでお届けしました。高関の真骨頂である読譜力を基に、難解な現代曲をソリストである河村尚子の持つあたたかな音色で表現し、多くの聴衆に現代作品への先入観を抱かせることなく届けました。幻想交響曲はパスカル・ヴェロ時代に鍛え上げた色彩感を失うことなく、更に緻密な構成力を打ち出し、ハープ2台を指揮台脇に設置するなどの新たな試みも功を奏し、多くの聴衆を魅了しました。

なお、各回の定期演奏会の様子につきましては、河北新報社様が記事を掲載し、広くご紹介いただいておりますことに感謝申し上げます。

## (2) 特別演奏会 (6回：6公演 ※中止1回：2公演)

令和3年4月4日に開催を予定していた毎春恒例のこども企画「オーケストラと遊んじゃおう！vol.17」は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

8月22日、岩沼市民会館で毎夏開催している「マイタウンコンサート」は、テレビ出演などでも人気のあるサクソフォン奏者の上野耕平を迎え、彼のために編曲されたビゼー作曲のカルメンファンタジーと、岩沼の風光明媚な景色を彷彿とさせるベートーヴェンの交響曲第6番「田園」をラインアップし、指揮者には楽団員の信頼も厚い末廣誠を起用しました。新型コロナウイルス感染症対策のため客席50%の運用で開催されましたが、注目度が高く、公演1週間前にはチケットが完売するほどの盛況となりました。

11月27日に開催された仙台フィル×山響合同演奏会は、平成23年(2011年)の東日本大震災で津波の被害に遭い破壊された石巻市民会館の代わりに、震災復興10年を機に復興のシンボルとして建設されたマルホンまきあーとテラスにて、桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを招き開催されました。ゲストには落語家で石巻観光大使の林家たい平を迎え、アルザスの風景ではヴェロらしいフランス音楽と林家たい平の語り絶妙に絡み合い、多くの聴衆を魅了しました。東北に存在する2つのプロオーケストラが手を取り合い、ヴェロのタクトのもと1つにまとまったボレロは圧巻そのものでした。この公演は演奏を楽しんでいただくだけにとどまらず、広域石巻地域における新たなホールの存在意義を知らしめました。

コロナ禍において開催が危ぶまれていた第九特別演奏会は12月25日、東京エレクトロンホール宮城にて開催されました。

ガイドライン上、合唱団は60名しか編成できないため、一般市民公募の仙台フィルと第九をうたう合唱団は例年180名程度募集していたところを経験者のみ40名の募集とし、残りの20名は在京のプロ合唱団、東京混声合唱団をお招きしました。

また感染症対策として合唱団とソリストをオーケストラの前方に配置し、合唱副指揮者を客席に置くというベートーヴェン初演のスタイルで臨みました。

この新たな配置は功を奏し、少人数ながらも作品が本来持つ響きを失わない結果を得ました。また、仙台フィルの第九としては初の試みとなるプロの合唱団との共演は、市民合唱団にも良い影響を与え、合唱団の技量の底上げにもつながりました。

令和2年、コロナ禍において開催できなかった本公演に対する市民の期待は

大きく、チケットは3階席も含め完売いたしました。

令和4年の新年を彩る名曲コレクション・ニューイヤーコンサートは1月9日に福島市音楽堂、10日にいわき芸術文化交流館アリオスにて開催されました。フランス留学で指揮者としての見地や技術をさらに広げた田中祐子を迎え、前半はニューイヤーコンサートらしいヨハン・シュトラウス2世のワルツやポルカで華を添え、後半は年に一度しか訪問しない福島の地でも本格的なクラシック音楽の名曲をお聞かせしたいとの思いで、チャイコフスキーの交響曲第4番をお届けしました。田中の澆漑としたタクトに導かれて多くの聴衆を魅了し、特に交響曲の演奏後には大きな拍手が鳴りやみませんでした。

なお、毎年12月に障害をお持ちの方とその同伴者を対象に開催している「もりのみやこのふれあいコンサート」は今回無観客配信という形で取り組みました。

### **(3) 依頼演奏会（55公演（新規30公演を含む） ※中止20公演）**

令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの公演が延期や中止となりました。

一方で、7月22日にはアイリスオーヤマクラシックスペシャルが東京サントリホールにて、桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを無事に招聘し華々しく開催され、多くのお客様に仙台フィルの演奏水準の高さを伝えることができました。

コロナ禍において文化芸術に対する新たな支援として国が打ち出した事業「オーケストラ・キャラバン」では4公演を獲得し、8月に東京都と秋田市、9月に函館市、10月にむつ市にて開催し、コロナ禍でイベントが中止や延期となっている地域に仙台フィルの音楽で潤いを与えました。

またコロナ禍において飛沫の原因となる声楽家との共演は困難を極めておりましたが、令和2年度は中止に追い込まれた仙台オペラ協会の公演が9月に無事に開催されました。同様にこれまで幾度も共演を重ねていた日生劇場ともコロナ後初共演が叶い、11月に盛岡にてプッチーニの大作オペラ「ラ・ボエーム」を演奏する機会に恵まれました。12月には長年続いている「岩沼第九演奏会」も合唱を客席に配置する形で復活を果たしています。

令和2年度は縮小開催となった「仙台クラシックフェスティバル」は、今年度

は10月1日～3日に通常開催となり、多くのソリストや音楽家を迎え5公演開催することができました。

12月17日には2月の公演とセットになっているオーケストラスタンダード公演の第1弾として、元NHK交響楽団首席オーボエ奏者、現指揮者である茂木大輔を迎え、なじみのある音楽を提供し、多くのお客様から同様のコンサートを継続してほしいとのお声を頂戴しました。また、12月26日開催の「明日へのコンサート」では、震災からの復興に想いを寄せるヴァイオリニストの山根一仁を迎え、震災10年目の節目として仙台市長のメッセージとともにYouTube配信も行い、震災後の支援への感謝をお伝えしました。

長年仙台フィルと良好な関係を築き、楽団員が学校を訪問し、音楽を届けるアウトリーチ活動等で連携していた名取市文化会館がその功績を認められ、令和2年度に「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞した記念に1月30日開催された名取市シネマコンサートでは往年の名作映画だけではなく、最近の人気作品の演奏も届け、受賞に華を添えました。

2月19日には毎年開催している新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズではオーディションで選ばれた5名のソリスト（ヴァイオリン、トランペット、メゾ・ソプラノ、サクソ、ピアノ）と協奏曲で共演し、新人の育成に大いに貢献しました。

2月23日にはオーケストラスタンダード公演の第2弾が開催されました。このコンサートは令和4年度に予定している第8回仙台国際音楽コンクールのプレ企画という位置付けで、当初はソリストに第7回仙台国際音楽コンクールの覇者であるチェ・ヒョンロク（ピアノ）とシャノン・リー（ヴァイオリン）を招聘する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に対する外国人入国の水際対策により入国できなくなったため、仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門の審査副委員長であり、NHK交響楽団で長年コンサートマスターを務めていた堀正文をソリストに迎え、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲を演奏して頂きました。演奏会の後半ではコンサートマスターの真価が問われるブラームスの交響曲第1番のゲストコンサートマスターも務めていただき、オーケストラにも大きな良い影響をもたらすことができました。

3月6日には東日本大震災翌年の平成24年（2012年）3月から継続的に開催されている「みんなでつくる復興コンサート」（主催 TBS ラジオ、tbc 東北放送、特別協賛 日立物流）が、震災から10年が経過した後も開催の運びとなり、ゲ



ストに女川町出身の中村雅俊を迎え、未だ続く震災からの復興への原動力となるコンサートとなりました。なお、昨年同様このコンサートの模様はライブ及びアーカイブ配信されました。

山形交響楽団と継続開催している合同コンサートは令和4年3月13日に山形交響楽協会の主催公演として開催されました。山響芸術総監督飯森範親指揮のもと、合同演奏会の醍醐味たる大編成の演目、マーラーの交響曲第5番を2000席の大ホール「やまぎん県民ホール」に鳴り響かせました。

#### (4) 室内楽

令和3年度も仙台市内のみならず、東北さらには全国各地で広く室内楽活動を行いました。

例年開催している東北電力スクールコンサートでは青森県を訪問しました。

コロナ禍以降中止に追い込まれていたサントリーホールディングスとの復興コンサート「サントリー&仙台フィル みんなのまちのコンサート」も復活し、震災11年目の節目となる3月11日に仙台駅前のS-PALにて開催され、多くの市民の方々に震災に想いを寄せる演目を提供しました。

また歴史姉妹都市である愛媛県宇和島市、音楽姉妹都市の大分県竹田市にも赴き友好を深めました。

#### (5) その他

NHK主催で令和2年度に開催された「オーケストラでつなぐ希望のシンフォニー」は、令和3年度は「NHK音楽祭～未来へ～」と題し、若手ピアニストを起用し、各地のオーケストラにより開催されました。仙台フィルでは10月20日にピアニストの藤田真央(2019年第16回チャイコフスキー国際コンクール第2位)とレジデント・コンダクター高関健の指揮で共演しました。このコンサートのチケットは完売し、11月7日にNHK-Eテレ「クラシック音楽館」で、12月28日にはNHK-FMでも放送され、大きな反響を呼びました。

### 3. 青少年音楽鑑賞及び演奏等に関する指導及びその普及

#### (1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

仙台市が主催する小学校5年生と中学校1年生を対象とする「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は昨年度同様新型コロナウイルスの影響により中止となり、その代替公演として仙台市内の公立小学校を対象に室内楽による訪問ミ

ニコンサートを開催し、67校を訪問して音楽を届けました。

## **(2) 「文化芸術による子供育成総合事業」及び「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」**

全国各地の小中学校を訪問する文化庁主催「文化芸術による子供育成総合事業」(9校14公演)に加え、補正予算事業である「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」(7校11公演)により、北海道、宮城、福島、茨城、千葉、埼玉、東京の小中学校を訪問して公演を行いました。令和3年度も令和2年度に引き続き世界的なサクソ奏者、齊藤健太(2019年世界最高峰のコンクール「アドルフ・サクソコンクール優勝者」)をソリストに起用し、子供たちの興味を惹き付けオーケストラ音楽の普及につとめました。

## **4. その他目的達成のために必要な事業**

### **(1) 演奏に必要な調査研究**

日本オーケストラ連盟加盟のオーケストラをはじめ、文化庁、日本芸術文化振興会、アフィニス文化財団、ロームミュージックファンデーション、日本クラシック事業協会との積極的な情報共有・連携を通じて、当団の運営や新型コロナウイルス感染症対策、新たな助成制度等について多くの知識を得ました。

毎年開催している各オーケストラのステージスタッフによる会議はリモートにて開催し、令和2年度にはリモートでは開催が難しいという理由で中止になったライブラリアン会議も、令和3年度はオンライン技術の向上によりリモートで開催しました。

### **(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団**

令和2年度は新型コロナウイルスの蔓延のため開催できませんでしたが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、合唱団を編成することができました。舞台上の人数制限を考慮して、40名の市民合唱団をオーディションにより選出し、人数不足を解消するため東京混声合唱団の力も借りながら、12月25日に歓喜の歌を響かせました。

### **(3) 仙台ジュニアオーケストラの指導**

自然災害や新型コロナウイルスの蔓延に伴い数年にわたり公演が中止に追い込まれていた仙台ジュニアオーケストラは、令和3年度も新型コロナウイルス

の蔓延状況により一部予定を変更せざるを得ない公演もありましたが、定期演奏会及びスプリングコンサートは予定していた日時に開催することができました。10月24日には仙台フィル指揮者である角田鋼亮を指揮者に迎え、第29回定期演奏会を開催、また3月27日開催のスプリングコンサートは宮城県に発令された「緊急特別要請」のため思うように練習回数が取れなかったことにより、一部曲目を変更して開催しました。(指揮：大井剛史)

なお、令和3年度より仙台フィルレジデント・コンダクターの高関健がジュニアオーケストラのスーパーヴァイザーに就任し指導にあたることによって、子供たちの演奏技術は飛躍的に向上しています。

#### (4) ラジオ放送とソーシャルメディアの活用

毎月第1日曜日夜に放送中のエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和3年度は楽団員1名と事務局員1名の出演により、歴代の仙台フィル演奏会より厳選した音源をセレクトしてお届けし、好評を得ました。そのほか、コンサートマスター西本幸弘が出演している「TOHKnet Sound Pizz.」や「サンデークラシックス」でも仙台フィルの情報を発信しています。tbc東北放送では引き続き毎月第2土曜日夜に「日立システムズエンジョイ！クラシック」が継続放送されており、コンサートマスターの西本幸弘(8月～11月)、チェロソロ首席奏者の三宅進(12月～3月)、オーボエ首席奏者の西沢澄博(4月～7月)がナビゲータを務めています。これら放送媒体に加え、公式Twitter、公式FacebookなどのSNSによる情報発信を積極的に行っています。

令和3年12月26日には震災10年の節目において、仙台市とともに「明日へのコンサート」(指揮：高関健 ヴァイオリン：山根一仁)を収録し、仙台市長のメッセージと併せて全世界へ向けて復興の歩みと支援の感謝の気持ちをYouTubeにて配信しました。

【参考資料】

(1) 定期演奏会 (14 公演)

・第 345 回～348 回 (土 1 回公演)

会場：仙台銀行ホール イズミティ 21・大ホール 開演：土曜日午後 3 時

・第 349 回～353 回 (金・土 2 回公演)

会場：日立システムズホール仙台・コンサートホール

開演：金曜日午後 7 時・土曜日午後 3 時

回	開催日	出演者	演奏曲目
345	5.22(土)	指揮：川瀬賢太郎 フルート：上野星矢	ハチャトゥリヤン：フルート協奏曲 ブラームス/シェーンベルク編曲：ピアノ四重奏曲第 1 番 ト短調 op.25 (管弦楽版)
346	6.12(土)	指揮：飯守泰次郎	チャイコフスキー：序曲「1812 年」 チャイコフスキー：交響曲第 5 番 ホ短調 op.64
347	7.10(土)	指揮：太田弦 ピアノ：外山啓介  ※指揮者変更	シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 op.54 レスピーギ：交響詩「ローマの祭り」 レスピーギ：交響詩「ローマの松」
348	9.18(土)	指揮：カーチュン・ウォン ピアノ：上原彩子	ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 op.18 ラフマニノフ：交響曲第 2 番 ホ短調 op.27
349	10.15(金) 16(土)	指揮：飯守泰次郎 ピアノ：小井土文哉	ブラームス：ピアノ協奏曲第 2 番 変ロ長調 op.83 ブラームス：交響曲第 2 番 ニ長調 op.73
350	11.19(金) 20(土)	指揮：鈴木雅明 ヴァイオリン：北田千尋 ※ソリスト変更	メンデルスゾーン：劇音楽「真夏の夜の夢」序曲 op.21 モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 ト長調 K.216 ベートーヴェン：交響曲第 3 番 変ホ長調 op.55「英雄」
351	2022 年 1.14(金) 15(土)	指揮：角田鋼亮 ハープ：吉野直子	バーバー：弦楽のためのアダージョ ヒグドン：ハープ協奏曲※日本初演 ラフマニノフ：交響的舞曲 op.45
352	2.4(金) 5(土)	指揮：飯守泰次郎 ヴァイオリン：郷古廉	ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.77 ブラームス：交響曲第 3 番 ヘ長調 op.90
353	3.18(金) 19(土)	指揮：高関健 ピアノ：河村尚子	矢代秋雄：ピアノ協奏曲 ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14

(2) 特別演奏会 (8 公演) うち 2 公演中止

	開催日	出演者	演奏曲目
オーケストラと遊 んじゃおう  【中止】	4.4(日) 2 回	指揮：岩村 力 ゲスト：TARAKO	スーザ：星条旗よ永遠なれ チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」 他 ※開演前に楽器博物館を開催。
マイタウン コンサート in 岩沼	8.22(日)	指揮：末廣誠 サクソ：上野耕平	ワーグナー：ジークフリート牧歌 ビゼー/山中惇史編曲：カルメン幻想曲 ベートーヴェン：交響曲第 6 番 ヘ長調 op.68「田園」

東北 UNITED 仙台フィル× 山形交響楽団	11.27(土)	指揮：パスカル・ヴェロ 語り：林家たい平	トマ：歌劇「ミニョン」序曲 マスネ：組曲第7番「アルザスの風景」 ドビュッシー：交響詩「海」 ラヴェル：ボレロ
もりのみやこの ふれあい コンサート  【無観客配信】	12.3(金)	指揮：松元宏康	J.ウィリアムズ：「スター・ウォーズ」組曲より“メインタイトル” ビゼー：「カルメン」組曲より“トレアドール”、“間奏曲”、“セギディーリャ”、“ジプシーの踊り”ほか
第九特別演奏会	12.25(土)	指揮：高関健 ソプラノ：中江早希 メゾ・ソプラノ：相田麻純 テノール：宮里直樹 バリトン：大沼徹 合唱：仙台フィルと第九をうたう会、東京混声合唱団	シベリウス：交響詩「タピオラ」 ベートーヴェン：交響曲第9番 二短調 op.125
名曲コレクション	2022年 1.9(日)福島 1.10(月) いわき	指揮：田中祐子	J.シュトラウスⅡ世：春の声 チャイコフスキー：交響曲第4番 へ短調 op.36 ほか

(3) 依頼演奏会（開催 55 公演） ※公演中止 20 公演

主 催 者	公 演 数	備 考
[ 公演数 ]		
文化庁（文化芸術による子供の育成総合事業） （子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業）	25 公演	
仙台市教育委員会等 （青少年のためのオーケストラ鑑賞会）	0 公演	代替公演として室内楽による学校訪問ミニコンサートを実施
仙 台 市（含む関係団体）	8 公演	せんくら、オーケストラ・スタンダード、明日へのコンサート
宮 城 県（県民ロビーコンサート・地方音楽会）	2 公演	1 公演中止（七ヶ浜）
藤 崎（ニューイヤーコンサート）	1 公演	
一 般 依 頼 各種コンサート	19 公演	
依頼公演合計	55 公演	

依頼演奏会（開催 55 公演）

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
4. 17 (土)	アイドリッシュセブンオーケストラ (仙台サンプラザホール)	指揮：西谷亮	主催：ソニー・ミュージックソ リューションズ
6. 14 (月) 6. 15 (火) 6. 16 (水) 6. 18 (金) [5 公演]	文化芸術による子供育成総合事業 (茨城県：阿見町立阿見第二小学校) (茨城県：土浦市立土浦第二中学校) (千葉県：秀明大学学校教師学部附属八千代中学校) (千葉県：大網白里市立大網東小学校)	指揮：松井慶太 サククス：齊藤健太	主催：文化庁
6. 28 (月) 6. 29 (火) 6. 30 (水) 7. 1 (木) [7 公演]	文化芸術による子供育成総合事業 (千葉県：千葉市立磯辺小学校) (茨城県：茨城県立結城特別支援学校) (茨城県：阿見町立あさひ小学校) (東京都：小平市立小平第五小学校)	指揮：松井慶太 サククス：齊藤健太	主催：文化庁
7. 12 (月) 7. 13 (火) 7. 14 (水) 7. 15 (木) 7. 16 (金) [7 公演]	子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業 (北海道：北斗市立上磯中学校) (北海道：苫小牧市立明倫中学校) (北海道：室蘭市立室蘭西中学校) (北海道：長万部市立長万部中学校) (北海道：北斗市立大野中学校)	指揮：松井慶太 サククス：齊藤健太	主催：文化庁
7. 22 (木)	アイリスオーヤマクラシックスペシャル 2021 (サントリーホール)	指揮：バスカル・ヴェロ 合唱：東京混声合唱団	主催：アイリスオーヤマ(株)
8. 18 (水)	アートキャラバン東京公演 (東京オペラシティコンサートホール)	指揮：角田鋼亮 ヴァイオリン：辻彩奈	主催：日本オーケストラ連盟
8. 26 (木)	アートキャラバン秋田公演 (秋田アトリオン音楽ホール)	指揮：茂木大輔	主催：日本オーケストラ連盟
9. 5 (日)	仙台オペラ協会公演 (東京エレクトロンホール宮城)	指揮：船橋洋介 共演：仙台オペラ協会	主催：仙台オペラ協会
9. 12 (日)	石川県立音楽堂 20 周年記念事業「楽都の響」 (石川県立音楽堂)	指揮：川瀬賢太郎・山田和樹	主催：(公財) 石川県音楽文化 振興事業団
9. 20 (月)	アートキャラバン函館公演 (函館市民会館)	指揮：カーチュン・ウォン ピアノ：上原彩子	主催：日本オーケストラ連盟
9. 23 (木)	野草園萩まつりコンサート	指揮：松井慶太	主催：仙台市野草園
10. 1 (金) 10. 2 (土) 10. 3 (日) [5 公演]	仙台クラシックフェスティバル (イズミティ 21)	指揮：山下一史 ギター：福田進一 フルート：工藤重典 ピアノ：松田華音 佐藤彦大 ヴァイオリン：大江馨 服部百音 ほか	主催：仙台市 仙台市市民文化事業団

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
10. 7 (火) [2公演]	子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業 (仙台市立大沢中学校)	指揮：鈴木織衛	主催：文化庁
10. 10 (日)	アートキャラバンむつ公演 (下北文化会館)	指揮：鈴木織衛	主催：日本オーケストラ連盟
10. 20 (水)	NHK 音楽祭～未来へ～ (日立システムズホール仙台)	指揮：高関健 ピアノ：藤田真央	主催：NHK 仙台放送局 NHK エンタープライズ東北
10. 22 (金) [2公演]	文化芸術による子供育成総合事業 (東京都：青梅市立今井小学校)	指揮：松井慶太 サクソ：齋藤健太	主催：文化庁
10. 31 (日)	エンジョイクラシック (日立システムズホール仙台)	指揮：鈴木織衛 共演：東北高校吹奏楽部	主催：日立システムズ
11. 2 (火)	明成高校新校舎落成記念演奏会 (東京エレクトロンホール宮城)	指揮：横山奏	主催：学校法人朴沢学園
11. 5 (金)	県民ロビーコンサート (宮城県庁ロビー)	指揮：佐々木新平	主催：宮城県
11. 23 (火)	日生劇場 歌劇「ラ・ボエーム」 (盛岡市民文化ホール)	指揮：園田隆一郎	主催：(公財) ニッセイ文化振興財団
12. 13 (月) [2公演]	子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業 (福島県：白河市立関辺小学校)	指揮：松井慶太 サクソ：齋藤健太	主催：文化庁
12. 17 (金)	オーケストラ・スタンダード Vol. 26	指揮：茂木大輔	主催：仙台市 仙台市市民文化事業団
12. 19 (日)	岩沼第九演奏会 (岩沼市民会館)	指揮：岩村力 ソプラノ：小野綾子 アルト：高山圭子 テノール：渡邊公威 バリトン：鈴木集	主催：(公社) 日本芸能実演家 団体協議会、宮城圏域アートキ ャラバン事業実行委員会、みん なで歌う第九の会、岩沼市
12. 26 (日)	明日へのコンサート (日立システムズホール)	指揮：高関健 ヴァイオリン：山根一仁	主催：仙台市 仙台市市民文化事業団
令和4年 1. 6 (木)	藤崎ニューイヤーコンサート2022 (電力ホール)	指揮：田中祐子	主催：藤崎
1. 20 (木)	仙台銀行70周年記念コンサート (イズミティ 21)	指揮：竹本泰三 チェロ：吉岡知広	主催：仙台銀行
1. 30 (日)	名取シネマコンサート (名取市文化会館)	指揮：鈴木織衛	主催：(公財) 名取市文化振興 財団
2. 13 (日)	宮城県地方音楽会 (気仙沼市民会館)	指揮：坂入健司郎 トランペット：浦田誠真	主催：宮城県 気仙沼市

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
2. 19 (土)	新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズ (日立システムズホール)	指揮：鈴木織衛 ヴァイオリン：小山あずさ トランペット：山川永太郎 メゾ・ソプラノ：佐藤涼香 サクソ：斎藤佳音 ピアノ：千葉まりん	主催：(公社) 日本演奏連盟
2. 23 (水)	オーケストラ・スタンダードV○1. 27 (日立システムズホール)	指揮：角田鋼亮 ヴァイオリン：堀正文	主催：仙台市 仙台市市民文化事業団
3. 6 (日)	みんなでつくる復興コンサート (名取市文化会館)	指揮：鈴木織衛 ゲスト：中村雅俊 共演：仙台南高校合唱部	主催：TBS ラジオ tbc 東北放送
3. 13 (日)	山響×仙台フィル合同演奏会 (やまぎん県民ホール)	指揮：飯森範親	主催：(公社) 山形交響楽協会